

普及施策の取組内容

目次

①流域治水を知る機会を増やす取り組み	#2
②自分事と捉えることを促す取り組み	#11
③行動を誘発する取り組み	#15
④流域にも視野を広げる取り組み	#21

① 流域治水を知る機会を増やす取り組み

流域治水ロゴマーク

◎ 「流域治水」のシンボルとなるロゴマーク

◎ 「流域治水」への賛同の意思表示を

1. 募集期間

令和5年6月中旬～令和5年7月中旬

2. 応募資格

どなたでもご応募いただけます。

3. 応募のポイント

- ・ 気候変動の影響による水害の激甚化・頻発化が懸念される中、流域に関わるあらゆる関係者が協働して、様々な施策を総動員し水害対策を行う「流域治水」の重要性を表現した作品であること。
- ・ 普及啓発用の物品やSNS等に活用しやすい作品であること。
- ・ 既存の作品に類似したものでないこと。

4. 審査

- ・ 優秀賞 1点 ロゴマークに採用

※応募作品は事務局にて厳正に審査を行い、候補作品を5作品程度選定します。

その後、一般投票を行い、優秀作品をロゴマークとして採用します。



流域治水ポスター

- ◎ 「流域治水」が視覚的に目に入るよう、インパクトを重視したデザインにしつつも、「流域治水」の必要性や意義を理解いただけるような内容に
- ◎ 自分ができること、やるべきことを考えるきっかけになるポスターに
- ◎ 掲示場所は駅やショッピングセンターなど、住民生活に身近な場所でたくさんの方々の目に触れるように



..... ポスター案①



..... ポスター案②

流域治水の日、週間

- ◎ 流域治水の更なる全国展開に向けて、令和6年度以降に「流域治水の日、週間」を創設予定。
- ◎ 同一の日時(期間)において、流域治水の気運醸成に向けた取組を全国一斉に実施することで、流域治水に対する国民の意識の向上を図る。

現状(各地方整備局等による気運醸成の取組事例)

上流～下流が連携したイベントの開催

(例) 荒川フェスティバル (福島県)

地域イベントの中で、水防災に対するより一層の理解促進を図るため、防災・減災等を普及啓発する体験ブース等を展開。阿武隈川支川荒川の河川敷を開放し、流域の特産品を販売・PRするなど、地域間の交流と流域の連携意識の形成を図ることで、流域治水への機運を高める。



防災車による降雨体験の様子



流域内の交流を図る物産店の様子

新聞、ラジオ、SNS等を活用した広報

- ・新聞広告の掲載による流域治水の取組紹介
- ・ラジオ(コミュニティ放送局)における流域治水の取組発信
- ・流域治水PR動画の作成、SNSでの公開

防災教育の実施

- (例) 土岐川・庄内川(愛知県)
- ・流域治水を周知・PRするため、小・中学生を対象に自由研究を募集
- ・若い世代における、流域治水への理解・興味関心の向上を図る。



今後の取組

R5年度

- ・各地方整備局等による取組を踏まえ、流域治水の日、週間の枠組みを検討
- ・関係省庁との調整を実施

R6年度以降

- ・同一の日時(期間)において、全国一斉に取組を実施

河川空間の利活用を通じた意識醸成

◎ かわまちづくり、ミズベリング、河川環境教育等の推進により、魅力ある河川空間を創出し、その利活用を通して、川への関心や理解を醸成することで、流域治水の意識の醸成を図る

現状・課題

- ・ 魅力ある河川空間の創出により、多くの人々が水辺を訪れ、利活用することで、当事者意識が生まれ、流域治水の意識の醸成が期待される。
- ・ 河川空間の利活用推進に向けて、かわまちづくり、ミズベリング、河川環境教育等の取組を進めており、全国に取組やネットワークが広がっている。
- ・ こうした日常の利活用のネットワークやコミュニティにおいて、流域治水の意識の醸成が重要。



日常の利活用の風景



全国276箇所、約11,000人が川の日「水辺で乾杯」を実施

今後の取組

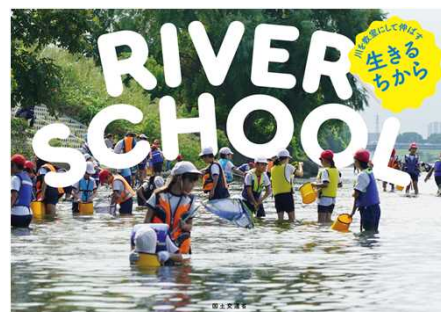
かわまちづくり・ミズベリング

- ・ 利活用に向けたイベントにおいて、流域治水をテーマにしたセッション等の開催
- ・ 令和2年度から実施しているミズベリング的流域治水ソーシャルデザイン研究会において、流域治水に繋がる利活用の取組について議論するとともに、普及啓発を実施



河川環境教育

- ・ 教育現場での河川環境教育の実践に向けて、教員向けパンフレットやこども向け教材を作成



SNS等での情報発信

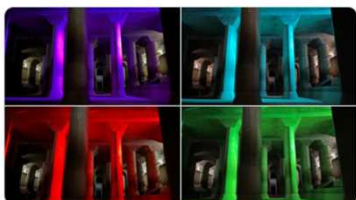
- ◎ 広く国民に「流域治水」を知っていただくため、本省、地方整備局等、事務所の公式Twitterを活用。
- ◎ 「#流域治水」を共通キーワードに、流域治水の取組や水に関する身近な話題やマニアックな話題を情報発信していく。

12月28日

国土交通省 @MLIT_JAPAN

写真は、外郭放水路を構成する施設のうち、江戸川に水をスムーズに流すため、水の勢いを弱める調圧水槽という施設で、67万立米メートルの貯水量を誇ります。カラー照明するとこんなに幻想的な光景に。

#水局広報チーム #外郭放水路 #地下神殿 #水しごと #流域治水 #川 #春日部



写真は、外郭放水路を構成する施設のうち、江戸川に水をスムーズに流すため、水の勢いを弱める調圧水槽という施設で、67万立米メートルの貯水量を誇ります。カラー照明するとこんなに幻想的な光景に。
#水局広報チーム #外郭放水路 #地下神殿 #水しごと #流域治水 #川 #春日部

2月24日

国土交通省 @MLIT_JAPAN

【クイズ】突然ですが#クイズです。埼玉県は地理的に海に面してはいませんが、川はたくさん流れてるんです。では、埼玉県の県土面積全体に占める河川の割合は全国で何位でしょうか？

答えは月曜日のこの時間に発表！お楽しみに♪

#水しごと #河川 #埼玉県



607票・最終結果

【クイズ】突然ですが#クイズです。埼玉県は地理的に海に面してはいませんが、川はたくさん流れてるんです。では、埼玉県の県土面積全体に占める河川の割合は全国で何位でしょうか？
① 1位
② 2位
③ 4位
④ 6位
答えは月曜日のこの時間に発表！お楽しみに♪
#水しごと #河川 #埼玉県

3月28日

国土交通省 @MLIT_JAPAN - 3月8日

週末、田んぼの間にある#栃木県 #群馬県 #埼玉県の3県境に行ってきました！この場所、昔は渡良瀬川の中だったんだとか。3県境に歩いて行けるなんて珍しいですよ！田んぼと云えば#流域治水対策のひとつとして#田んぼダムも近年注目を集めています！

#水しごと #田んぼ #ダム



週末、田んぼの間にある#栃木県 #群馬県 #埼玉県の3県境に行ってきました！この場所、昔は渡良瀬川の中だったんだとか。3県境に歩いて行けるなんて珍しいですよ！田んぼと云えば#流域治水対策のひとつとして#田んぼダムも近年注目を集めています！

#水しごと #河川 #ダム

1月10日

国土交通省 @MLIT_JAPAN - Jan 10

新年2発目の投稿は、隅田川から望むスカイツリーです！隅田川沿いには、魅力的な観光スポットのほか、遊歩道や水辺のテラス付き飲食店#かわてらす等もあり、賑わい創出が図られています。ぜひ水辺を歩いてみませんか。

#水しごと #隅田川 #かわまち #東京スカイツリー #水局広報チーム



新年2発目の投稿は、隅田川から望むスカイツリーです！隅田川沿いには、魅力的な観光スポットのほか、遊歩道や水辺のテラス付き飲食店#かわてらす等もあり、賑わい創出が図られています。ぜひ水辺を歩いてみませんか。
#水局広報チーム #水しごと #隅田川 #かわまち #東京スカイツリー

1月12日

国土交通省 @MLIT_JAPAN - Jan 12

《受験生の皆さんへ》写真は埼玉県にある「合角(かっかく)ダム」で撮影しました。「合角」という文字は「#ごうかく」とも読めることから縁起が良いとか。今週末の大学入学共通テストで皆さんが全力を発揮できるように応援しています！

pref.saitama.lg.jp/b1007/k-dam/

#水局広報チーム #合角ダム #合格祈願



《受験生の皆さんへ》写真は埼玉県にある「合角(かっかく)ダム」で撮影しました。「合角」という文字は「#ごうかく」とも読めることから縁起が良いとか。今週末の大学入学共通テストで皆さんが全力を発揮できるように応援しています！
#水局広報チーム #合角ダム #ごうかく #合格祈願

1月19日

国土交通省 @MLIT_JAPAN - Jan 19

小学校の先生必見！#防災教育ポータルでは、洪水をどのようにとらえ、避難につなげるか、#小学校#理科の授業で防災も学べる動画公開中！
小4 雨水の行方と地面の様子
小5 流れる水の働きと土地の変化
小6 土地のつくりと変化
授業や家での学習にご活用下さい！
mlit.go.jp/river/bousai/e...



19 34

小学校の先生必見！#防災教育ポータルでは、洪水をどのようにとらえ、避難につなげるか、#小学校#理科の授業で防災も学べる動画公開中！
小4 雨水の行方と地面の様子
小5 流れる水の働きと土地の変化
小6 土地のつくりと変化
授業や家での学習にご活用下さい！

インフラツーリズムで訪れた人々に流域治水に触れてもらう取組

◎ インフラツーリズムを通じて、インフラを訪れた人々が楽しみながら役割や過去の災害等のつくられた背景を学ぶことで流域治水との関わりを深めてもらう取組を推進

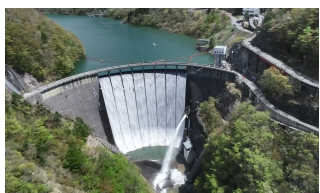
環境整備事例：鳴子ダム

■施設概要

宮城県大崎市に所在する治水・かんがい・発電の多目的ダム。日本初の純国産アーチダムとして土木学会選奨土木遺産にも認定。

■取組概要

ダムを訪れた人々にダムの歴史や役割の情報を発信するため、多言語案内看板整備やマップの作成等の環境整備を実施中。年間約5.3万人（令和4年度）が来訪しており、更なるインフラツーリズム拡大のため、（一社）みやぎ大崎観光公社や地元大崎市と連携し、すだれ放流やライトアップを活用したツアー商品の販売等の取組を実施。



鳴子ダム すだれ放流



多言語案内看板の設置（イメージ）



首都圏外郭放水路

■施設概要

埼玉県春日部市に所在する地域の浸水被害軽減を目的に建設された世界最大級の地下河川。

■取組概要

受入れ人数を拡大するため、土日祝日を含めた「民間運営」による社会実験見学会を平成30年8月より実施しており、年間約5.5万人（令和4年度）が参加。見学会にて地下神殿コンシェルジュが防災システムとしての施設概要や仕組、被害低減の効果を説明。



施設説明状況

伝統的施設事例：富士川流域

■施設概要

登録有形文化財に指定されている栃原砂防堰堤、武田信玄によって築かれた信玄堤など、伝統的な施設が存在。

■取組概要

砂防施設の役割や歴史を情報発信する『SABOカード』をイベント等で配布。また、賑わい創出のための散策路の整備、案内板の整備やパンフレットの公開を実施。



信玄堤



栃原（とちはら）砂防堰堤

関東地方整備局甲府河川国道事務所、富士川砂防事務所HPより

今後の取組

- ・多くの人々にインフラへ訪れてもらうため、官民連携による受入れ人数の拡大や、そのときその場でしか体験できないインフラツーリズムの魅力を発信すると共に、様々な事業（観光財源充当事業等）を活用し、インフラツーリズムの受け入れ環境の整備（多言語の案内板・ホームページの整備）を推進

ダイナミックSABOプロジェクト

◎ 全国各地に整備されている砂防施設を活用し、「防災意識啓発」を推進します。

各地における民間が主体となった砂防施設を活用した取組事例収集・成功事例の全国発信、官民連携による民間主体の砂防施設を活用した地域活性化・防災意識啓発ガイドラインを策定し、「見る」「学ぶ」「体験する」を通して、住民等が自分事となるような「防災意識啓発」の取組を推進します。

四季のある風光明媚な
ダイナミックな景色

ひとたび猛威を振ると
土砂災害などの自然災害

見る

砂防を活用した「防災啓発」「地域活性化」
ダイナミックSABO
プロジェクト

学ぶ

体験する

砂防堰堤などの事前防災
ダイナミックな砂防技術

砂防を
自分で・学んで・体験して
自分事として「防災意識の啓発」を！

住民参加の避難訓練

中学生による防災ワーキング

住民自ら防災マップの作成

地域住民による
樹林整備活動

はまツーリズム(Beach Tourism & Resort)推進プロジェクト

◎ はまツーリズム推進プロジェクトは、人々に海岸を身近に感じてもらうことで、海岸への関心を深めてもらう取り組みです。

- はまツーリズム推進プロジェクトは、官民が連携した取り組み等を通じて、海岸を訪れた人々に海岸の「防護」「利用」「環境」への理解を深めるとともに、沿岸地域の活性化を図ります。
- これらの取り組みを促進するため、海岸協力団体の指定促進、海岸利用の活性化に向けたナレッジ集の増強、はまのブランド化などに取り組んでいきます。

はまツーリズム推進プロジェクトの取組事例

海岸を訪れてもらう

整備した砂浜の利用



利用に配慮した護岸



海岸に面した遊歩道



海辺でのWorkation
ワーケーション



観光との連携



日本海タヨコンサート



出典：日本海新聞 Net Nihonkai (2023/4/23)

海岸を知ってもらう

防護についての勉強会



防災についての講演



環境教育活動



津波タワーへの避難訓練



アカウミガメの生態
についての説明



利用マナーの周知

海岸を良好に保つ

海岸清掃



浜辺植物の植栽・保護



安全利用点検



防風林の保護

② 自分事と捉えることを促す取り組み

防災教育に関する素材提供

◎ 学校で授業を行う先生方をはじめ、皆様に防災教育に取り組んでいた
だく際に役立つ情報・コンテンツを収録したポータルサイトを平成30年
に国土交通省ホームページに開設。

◎ 国土交通省の最新の取組内容や授業で使用できる教材例・防災教育
の事例などを紹介。

◎ 学習指導要領により教育の現場において、防災教育の重
要性が高まっているが、自然災害は、地域特性により災
害の形態や被害状況は大きく異なることから、教科書を用いた画一的な授業では教材が不足。

◎ また、教科書的なカリキュラム作成や授業数の確保が困
難であることに加え、教員も転勤などにより学校周辺地
域の様子について知識が不足しているのが現状であるこ
とから、**防災教育に関する素材を提供中。**

◎ 令和5年度より実践的な教育現場の実態に
即した教材への見直しに着手。

◎ 災害時の危険な状況や気をつけるべきポイント
をまとめた「カードゲーム」や授業を補完す
る「動画」、防災教育を行う教員のための「ガ
イドブック」もこのポータルに掲載



▲防災カードゲーム
「このつぎなにがおきるかな？」
～洪水・津波編、土砂災害編、
地震編を公開しています～



▲子ども向け動画
「洪水から身を守るには
～命を守るための3つのポイント～」



▲教員のためのガイドブック
「いのちを守る 教員のための
ブックレット」

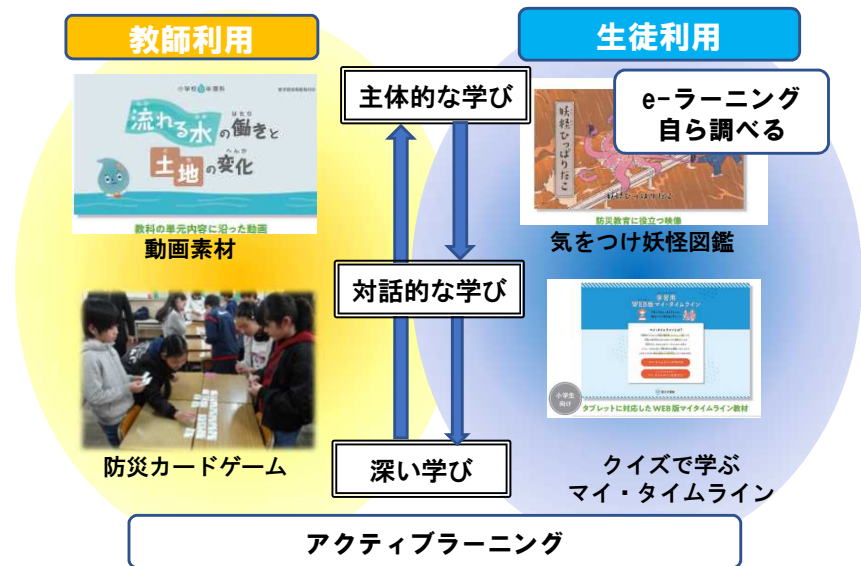


防災教育ポータルで検索🔍

✓ 実践的な教育現場の実態に即した教材への見直し

◎ 学校の授業では主流となっている**アクティブラーニング**に対応
するため、**e-ラーニング**で活用できる教材の**ユーザーインター
フェイスの改良**（構成の見直し）及び**コンテンツ作成**。

限られた授業の時間で
効率かつ自主的な学びを目指した改良



◎ 全国各地で発生した災害映像や想定される被害シミュレ
ーション等を収集し、身近な地域での被害想定や、シチュエ
ーション毎の分類分けを行い、教育現場の方にも対応した防災
知識の習熟に向けたコンテンツを整理。



関東地方整備局 荒川下流河川事務所
「フィクションドキュメンタリー荒川氾濫」



九州地方整備局 大分河川事務所
「大分川の堤防決壊シミュレーション」

(参考)未来の防災に資する人材育成

- ◎ 洪水や地震などから「命をまもる」ためには、適切な行動できる能力を養うことが重要。災害が起こるメカニズムを理解し、事象の特性をとらえ、予測、判断し、行動する過程を条件反射的に対応できる力を獲得させる必要がある。
- ◎ 日頃から防災に興味をもってもらえることが必要であり、夏休みの子どもたちを対象とした「こども霞ヶ関見学デー」や、民間企業と連携した関東大震災100年を契機としたイベントを通じ、未来の防災に資する人材の育成を推進する。

こども霞ヶ関見学デー

- ◎ 毎年8月に実施しているこども霞ヶ関見学デーにおいて、未来の防災に資する人材を育成するため、災害現場を再現したジオラマやミニカーを通じた災害対応や、防災カードゲームなどを実施。令和5年も8月に開催予定。



関東大震災100年イベント

- ◎ 関東大震災100年を契機とした「関東大震災特別企画展」を国営東京臨海広域防災公園にて令和5年8月26日～28日に実施。
- ◎ 国土交通省が作成した防災カードゲームのほか、報道機関、建設業界団体などの民間企業も参加し、防災に関する普及啓発を実施予定。
日時：令和5年8月26日～28日
場所：国営東京臨海広域防災公園



ジオラマを使った災害体験



防災カードゲーム



なりきりTEC-FORCE隊員

クイズで学ぼう!

マイ・タイムライン

大雨や水害から身を守るために、避難までの行動計画を考えよう!

マイ・タイムラインとは？
 雨は予測できるので、水害が起こる前に準備することができます。水害に備え、一人一人が「いつ」「どのような」行動をするかを決めたものがマイ・タイムラインです。災害から身を守るためにはあわてずに避難することが大切です。あらかじめマイ・タイムラインで自分の行動を決めておくことで、いざというときに自分自身や身近な人の命を守ることに繋がります。

さあ、クイズでマイ・タイムラインについて学ぼう!

クイズが終わったら、住んでいる自治体のホームページでマイ・タイムラインについてより詳しい情報を調べよう。

使い方

クイズに答えながらマイ・タイムラインを学ぼう!

クイズで学ぶマイ・タイムライン

YAHOO! JAPAN

ちょボットの防災道場

～地しんつなびの巻～

防災道場

はじめから

つづきから

本お手続きを通じて取得した情報は、本お手続きに関する対応及び「プライバシーポリシー」に従って利用します。ほかの目的で利用することはありません。

ヤフー株式会社との連携

※ブース出展においてNHKとの連携も予定

人の意識を変え、災害を自分事化し、行動に移させることを目的として、水害伝承に関する良質な情報（コンテンツ）を普及・拡大する。

水害伝承に接する「機会」の拡大

水害伝承活動に関する情報（コンテンツ；Webや伝承施設等）のうち、一定レベルの情報を収集し、誰もがアクセスできるプラットフォームを構築する。

point

全国各地で水害伝承活動は行われているが、それら事例は現在は単体として孤立しており、取組みのレベルも様々である。そこで、一定レベルのコンテンツを周知、接する機会の創出と横展開を図る。

水害伝承認定制度

収集したコンテンツのうち、人の意識に働きかける（具体的に心を揺さぶる、水害に備えた行動や避難行動に誘う）ものを【認定】し、好事例として紹介する。

point

自分事化につながる良質なコンテンツの要件を検討・整理する。
【認定】されたコンテンツを紹介することにより、深い学びを広め行動につなげる。

③ 行動を誘発する取り組み

共有プラットフォーム

◎ 各流域における取組事例を共有するウェブサイト「全国流域治水MAP」として構築（水管理・国土保全局特設サイト「カワナビ」内に設置予定）。

◎ 事例、課題やノウハウを端的に紹介し、#タグ付けして類似例がみられる構成にする。

ウェブサイトイメージ



各取組事例のページ（制作中）

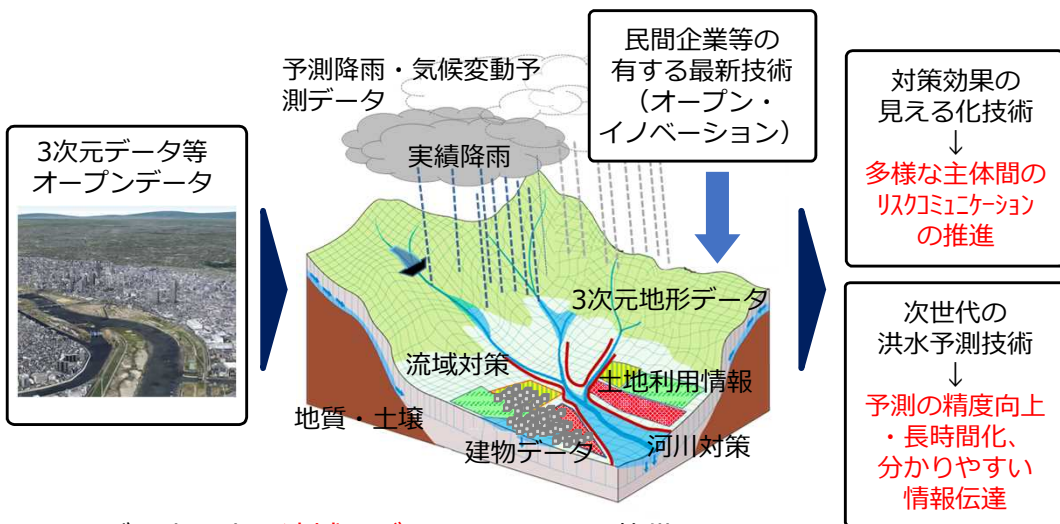


デジタルテストベッド

- ◎ 気候変動による水災害の激甚化・頻発化への備えとして、国として必要な流域治水立案技術及び洪水予測技術の開発を加速するため、サイバー空間上の実証実験基盤(デジタルテストベッド)を整備する。
- ◎ 本基盤整備によりオープンイノベーションを加速させ、より早期の流域防災技術の開発・実装を目指す。

事業内容

国として必要な流域治水立案技術及び洪水予測技術の開発を加速するため、サイバー空間上の実証実験基盤（デジタルテストベッド）を整備する。



サイバー空間上に流域のデジタルツインを整備。最新技術を結集し、様々な条件で実験を実施。

「流域治水の対策効果の見える化技術」
「次世代の洪水予測技術」を開発

効果

近年、洪水が発生した水系を対象に、先行的にデジタルツインによる水害リスクの見える化機能（デジタルテストベッドの一部機能）を先行開発し、出水期前に行う流域治水協議会等により自治体等へ周知することで、流域内住民の避難行動促進につなげる。

先行検討水系(山国川水系)



3次元データ・解析技術を活用した水害リスクの見える化（イメージ図）

地域に貢献する水防活動への企業等の参画

- ◎ 民間企業、NPO、自治会等に水防協力団体への参画を促し、地域を水害から守る水防活動への協力、水防に関する情報収集・提供及び知識の普及・啓発等の活動を促進する。
- ◎ 水防協力団体は、地域の水災防止体制を保持するため、水防管理者(市町村長等)が水防法に基づき民間企業、NPO、自治会等を指定する制度。

水防に関する啓発等の協力

- ・ 水防に関する知識の普及、啓発、イメージアップ
- ・ 水防に関する情報収集、提供



商業施設による水防に関する啓発の協力
(民間企業)

水防活動への協力

- ・ 水防に必要な資機材の保管、提供
- ・ 水防上必要な監視、警戒



水防資機材の保管、提供

流域治水オフィシャルサポーター制度

- ◎ 流域治水に取り組む企業等や流域治水の取組を支援する企業等を幅広く周知するとともに、流域治水に資する取組を促進するため、オフィシャルサポーター制度を創設。
- ◎ 流域治水の推進に取り組む企業等をオフィシャルサポーターとして認定し、その取組を国土交通省ウェブサイト等で紹介するほか、企業等の活動において、オフィシャルサポーターである旨を明記することが可能。

流域治水オフィシャルサポーターの活動内容(例)

流出抑制や水害の被害低減に資する取組の実践

- ・ 自社ビルや駐車場地下に雨水貯留施設を設置
- ・ 流域治水に資する新技術の開発（雨水貯留施設に活用可能な資材、「田んぼダム」のための排水装置等）
- ・ 地域の水害リスク情報や避難情報を住民・企業に向けて発信



ビル・商業施設における雨水貯留施設の設置（イメージ）

住民・企業などの理解を促すための情報発信・啓発活動

- ・ メディア等が自社のSNSやwebサイトを通じて、地元の自治体や企業の流域治水の取組を紹介
- ・ 企業が開催するイベントにより、地域住民の流域治水への理解・参画を促進



イベントの例：

マイ・タイムライン検討のためのワークショップ
住民一人ひとりが、自身の置かれている洪水リスクを踏まえ、自分自身に合った避難行動を自ら考える。

国・自治体等による取組の支援

- ・ 自治体の運営する避難所への資機材の提供
- ・ 自治体との協定により、企業社屋等を水害時の避難場所として提供
- ・ 河川管理者主催の避難訓練・水防演習等への主体的な参加



NPO法人による避難所への間仕切りの提供※

※奈良市HP
<https://www.city.nara.lg.jp/site/bousai-saigai/7138.html>

今後の取組

R5年度

- ・ 申請受付・認定
- ・ 各企業等によるオフィシャルサポーターの活動開始
- ・ 運用を踏まえた改善検討

R6年度以降

- ・ 運用改善に基づく取組の実施

防災・減災ビジネスの推進(オープンデータ活用)

◎ 雨量、水位など流域の幅広い実績データを使いやすい形式で提供するとともに、リアルタイムデータを災害時も含めて安定的に配信するなど、流域におけるオープンデータの推進により、これらのデータを活用した、防災・減災力の向上につながる様々な民間サービスの創出を促進する。

現状

- 地域の防災・減災力の向上には民間の資金や技術を活用したイノベーションによるサービス創出が有効であるが、データ形式の統一、提供データの拡充、DBのUI改良など、データの利便性の向上が大きな課題。
- また、様々な河川情報を扱うための複雑な伝送系は、災害時の安定的なデータの障害リスクを高めている。

民間から寄せられたニーズ

- AI技術開発のため、実績のレーダ雨量データを提供してほしい
- 地図検索や一括検索などデータベースのUIを改善してほしい
- データを効率よく受け取るためのAPI機能を設けてほしい



メディアや自治体を含む検討会

現状の課題

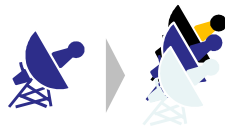
- データ形式が未統一



- DBが使いづらい



- データの拡充が必要



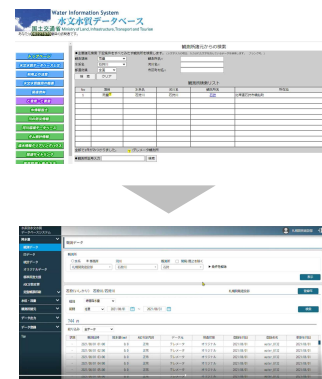
- 安定配信に課題



今後の取組

- 令和5年度の気象業務法及び水防法の一部改正に伴い、リアルタイムデータの配信単位を細分化するとともにデータ毎の利用条件などを明確化させ利用しやすい環境条件を整える。
- また、DBのUI改良を行い、データの利便性向上を図る。

DBのUI改良



- 流域に関する幅広いデータを使いやすい形式で安定配信



- 民間によるサービス開発



④ 流域にも視野を広げる取り組み

円滑な避難を支援する人材育成

- ◎ マイ・タイムラインやコミュニティ・タイムラインなどで個人や地域の円滑な避難を行うため、防災士、水防団、消防団、気象予報士、気象キャスターなどを対象にファシリテーターとなる人材を育成し、各地域に講師として派遣する仕組みを構築する。

【人材育成の取組】



防災士を対象とした研修会



消防団を対象とした研修会

【円滑な避難を支援する取組】



気象キャスターによるマイ・タイムライン講習会



自治会役員等による要配慮者マイ・タイムライン作成支援

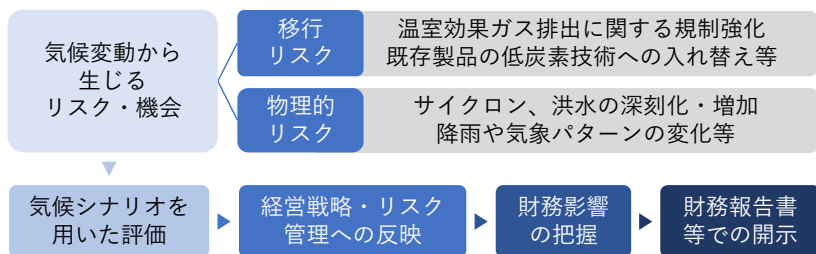
TCFD提言を契機として企業が洪水リスクを理解し対策を講じることを促進する取組

◎ TCFD提言等による気候変動に係る洪水リスク評価及び対策の情報開示の支援等を通じて、企業が洪水リスクを理解し対策を講じる「自分事化」の促進を図る。

企業に気候変動リスクの評価が求められている背景

- ・ 令和4年4月の東証再編後、プライム市場上場企業においてTCFD又はそれと同等の国際的枠組みに基づく気候変動開示が義務化
- ・ 上場企業（約1,800社）のうちTCFDに賛同し開示を行っている企業は約600社。9割以上が水害のリスクを評価、うち約2割は被害額増等を定量的に評価 ※令和4年9月時点

TCFD提言による企業の情報開示の枠組み



洪水リスク評価及び対策の手法の提示

企業の気候変動を踏まえた洪水リスク評価及び対策の方法をとりまとめた「TCFD提言における物理的リスク評価の手引き ～気候変動を踏まえた洪水による浸水リスク評価～」を国土交通省ウェブサイトにて公開（令和5年3月）



【手引き本文】

- ①スクリーニング
 - ・ 評価拠点の特定／洪水規模の設定
 - ・ 現在の洪水リスクの把握
- ②将来リスクの評価
 - ・ 財務インパクトの特定
 - ・ 気候変動シナリオ・時間軸の設定
 - ・ 定性的評価または定量的評価
- ③洪水リスクの開示

【洪水リスク評価の流れ】



【対策例の紹介】

（上：止水壁、
下：電気設備のかさ上げ）

今後の取組

✓ 先進的に水害リスク評価及び対策を行う企業のPR

- ・ 国土交通省は、企業の洪水リスク評価及び対策の内容について事例収集を行い、先導的な取組を行う企業を広く紹介することで、企業による洪水リスク評価や対策実施の機運を醸成
- ・ 国土交通省は、企業により目的に応じた適切な手法で洪水リスク評価が行われるよう、企業が実施した洪水リスク評価手法の評価・認証などを検討

✓ 気候変動リスクの評価に必要なデータの一覧化

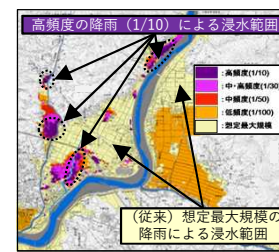
「気候変動リスク・機会の評価に向けたシナリオ・データ関係機関懇談会」での検討を踏まえ、気候変動リスク・機会の評価に必要な公表データを、関係省庁が連携して一覧化するなど、企業によるデータの取得の容易化を検討

気候変動リスク・機会の評価に向けたシナリオ・データ関係機関懇談会

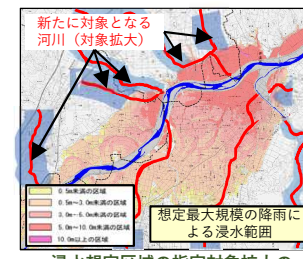
金融庁、文部科学省、環境省、国土交通省が連携して「気候変動リスク・機会の評価に向けたシナリオ・データ関係機関懇談会」を設置（令和4年12月）し、企業による気候変動リスク・機会の分析・評価の取組状況や課題を把握

✓ 洪水リスク評価実施の環境づくりのための更なるリスク情報の充実・公開

- ・ 国土交通省では、浸水範囲と浸水頻度の関係を示した水害リスクマップについて、ベースとなっている多段階の浸水想定図のデータを公開し、利活用を促進
- ・ ハザードマップ等の空白域解消のため、洪水浸水想定区域の指定対象を約17,000に拡大



水害リスクマップのイメージ



浸水想定区域の指定対象拡大のイメージ（空白域解消）

企業と連携した生物多様性保全に資する取組

◎ TNFDにおける議論を踏まえ、今後、企業による生物多様性保全の取組のさらなる活性化が期待される。

生態系ネットワーク協議会における企業連携

✓ 生態系ネットワーク

- ・国土交通省では、流域における多様な主体と連携し、川の中を主とした取組から、流域の「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」へと視点を拡大し、流域の緑地や農地などにおける環境省や農林水産省の施策とも連携しながら魅力的で活力ある地域づくりを支援
- ・全国で17の協議会が活動 ※R5.4月時点

✓ 石狩川流域

- ・洪水調節のために造られた舞鶴遊水地の植生や水環境を管理し、繁殖期の立入制限や見守り活動を通じて、タンチョウが営巣しやすい環境を整備
- ・学校での環境学習、舞鶴遊水地を活用したイベント、地元産の米や野菜等を使った商品開発・販売などを行い、地域活性化にも活かす取組を実施
- ・近年は、北海道中央バス（株）や（株）JALスカイ札幌などと連携したバスツアーを開催



【JALと連携したバスツアーで提供された町産農産物を使った機内食風ランチ】



【タンチョウをシンボルに開発された商品】
(写真:ながぬまタンチョウおもてなしセレクション)



【子どもたちと「スノーアート」を制作】
(写真:長沼町)

✓ 斐伊川流域

- ・ラムサール条約湿地の宍道湖・中海や斐伊川流域において、大型水鳥をシンボルとした生態系ネットワーク形成に向けた取組を環境づくりと地域づくりの両面から推進
- ・地元観光協会と共にマガンのねぐら入りを見学するツアーなどを開催
- ・地元酒造会社と連携し、ツアーにちなんだお土産を進呈



【宍道湖へねぐら入りするマガンの群れを観察するツアー】



【地元酒造会社と連携しツアーにちなんだお土産（酒粕）を進呈】

地域と連携した生物多様性保全の活動

✓ 「埼玉セブンの森」の活動

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会と国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所と川島町と（一財）セブン・イレブン記念財団の四者で、「埼玉セブンの森」事業に係る連携に関する協定を締結（R4年11月）

以下を目的に活動

- ・荒川の河川改修により残された旧流路周辺の河畔林や湿地を保全・再生し、生物多様性の向上を図る
- ・「エコロジカル・ネットワーク」（野生動植物の生息空間）づくり
- ・流域住民が自然と触れ合う機会を提供する



【サクラソウの苗5株を植栽】



【環境学習】



【灌木類除去】

✓ シャープディスプレイテクノロジー株式会社三重事業所

- ・地域住民発足の「佐奈川を美しくする会」と連携し、絶滅危惧種アゼトギリを保護・繁殖する勉強会に参画し、事業所内での栽培、地域と連携した移植地整備を実施
- ・事業所の調整池に生息しているタモロコヤフナを捕獲し、佐奈川に放流する取組を実施



【絶滅危惧植物の保全（移植）】



【佐奈川への魚の放流】



【水生生物観察会】




表彰制度(流域治水大賞)

- ◎ 流域治水に寄与する活動を応募、顕彰し、広く全国に紹介、啓発するための表彰制度を創設する。
- ◎ 企業、団体、行政、個人、学校等を募集対象とし、応募された活動の中から優れたものに対して賞を授与。インセンティブを設けた表彰制度とすることで取組の拡大を支援。

流域治水 関係省庁:

内閣府、金融庁、総務省、消防庁、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、林野庁、水産庁、経済産業省、資源エネルギー庁、中小企業庁、気象庁、環境省

インフラDXに関する優れた取組を表彰し、ベストプラクティスとして横展開(企業、地方公共団体等)

取組 ○土砂災害警戒区域の情報などをGISへ ・市町村所有の地番図データの取り込み 地番検索で場所を瞬時に特定 ・GISの警戒区域と関連図書を紐づけ ワンクリックで瞬時に情報を表示 	効果 ○行政サービス向上 半日程度→15~20分程度 ○職員の負担軽減 ○対応記録のペーパーレス化 
展開 ○タブレット端末等での窓口対応 ○オープンデータ化による情報公開 ○類似業務への展開 	

国土交通大臣表彰(地方公共団体等の取組部門) 土砂災害警戒区域の照会迅速化【埼玉県】



表彰制度事例(インフラDX大賞)

インフラメンテナンスに関わる事業者、団体、研究者等の取組を表彰し、ベストプラクティスとして横展開し取組を促進

国土交通大臣賞 松江市上下水道局



- ◆登録有形文化財の保全
- ◆水道水供給継続
- ◆早期完成

文化財に指定されたダムの大堤PSアンカー工法による耐震補強工事



表彰制度事例(インフラメンテナンス大賞)

地域を流れる川を活かして、賑わいを創り出し、他の模範となる先進的な取組を表彰 これからの「かわまちづくり」の質的向上を図るほか、民間事業者への参入を促進



表彰制度事例(かわまち大賞)